

AI戦略（人材育成関連）

平成31年4月18日

内閣府特命担当大臣（科学技術政策）平井卓也



AI時代に求められる人材育成に関する主な取り組み

デジタル社会の「**読み・書き・そろばん**」である「**数理・データサイエンス・AI**」の基礎などの必要な力を**全ての国民**が育み、あらゆる分野で人材が活躍

主な取組

エキスパート

先鋭的な人材を発掘・伸ばす環境整備

- 若手の自由な研究と海外挑戦の機会を拡充
- 実課題をAIで発見・解決する学習中心の**課題解決型AI人材育成**

応用基礎

AI応用力の習得

- AI×**専門分野**のダブルメジャーの促進
- AIで**地域課題等の解決**ができる人材育成（産学連携）

認定制度・資格の活用

- 大学等の**優れた教育プログラム**を政府が認定する制度構築
- **国家試験**（ITパスポート）の見直し、高校等での活用促進

学習内容の強化

- 大学の標準カリキュラムの開発と展開（MOOC **活用等**）
- 高校におけるAIの基礎となる**実習授業**の充実

小中高校における教育環境の整備

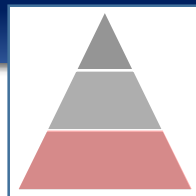
- 多様なICT人材の登用（高校は1校に1人以上、小中校は4校に1人以上）
- **生徒一人一人が端末**を持つICT環境整備

リテラシー

育成目標【2025年】



リテラシー教育



デジタル社会の「**読み・書き・そろばん**」である「**数理・データサイエンス・AI**」の定着に向けて、**小学生から社会人まで**各段階において長期的に取り組む

認定制度・資格の活用

必要な素養・スキル（出口）に応じた
人材の質を担保する仕組みを構築

小中学校

理数の興味
関心向上

高校

全ての高校
生が基礎的
リテラシーを
習得

大学入試

「情報」の
採用の拡大

大学・高専

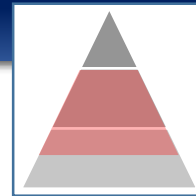
初級レベルの
数理・データ
サイエンス・AI
を習得

社会人

AI活用スキ
ル習得
就職・待遇
への活用

初等中等教育、高等教育、リカレント教育の長期的取組

大学におけるリテラシー・応用基礎教育



- 2025年までに**全学生（50万人/年規模）**が「**数理・データサイエンス・AI**」の基礎を習得可能となる大学教育へ改革
- AI×**専門分野**のダブルメジャーの促進等による**AIを応用する基礎力の習得**

入試

- 大学入学共通テストでの「**情報**」出題
- 取組状況に応じた**インセンティブ**（助成金等）

学習

- 標準カリキュラム・教材・教育プログラムの**開発と全国展開**
- 優れたコースの**政府認定**
- 取組状況に応じた**インセンティブ**（運交金、助成金等）

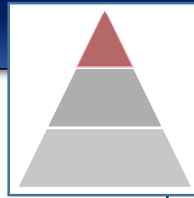
教員

- **拠点大学での研修**
- **産業界、研究機関等との連携**（講師派遣、共同研究等）

環境

- AI×**専門分野**の**ダブルメジャー**を可能とする**制度改正**
- MOOC、放送大学等の**活用支援**
- 留学生の**受け入れ促進**

エキスパート教育



先鋭的な人材が自由にその能力を開花・発揮でき、世界の優秀な人材を惹きつける魅力的な環境の整備

環境

- 年齢を問わず、高度な理数能力や突出したアイデア・技術を持つ人材が自由にその能力を伸ばす環境

- 自由な発想や若手の研究への重点支援
- 未踏事業の拡充
- 「新しい学びの場」の検討

実践

- 現実の課題にAIを応用して解決する実践力
- 革新的な製品・サービスをデザインし、新たな価値を生み出す能力

- PBL 中心の課題解決型 AI人材育成制度の検討・実施
- 研究開発インターンシップ

Problem/Project Based Learning : 問題発見解決型学習/プロジェクト型学習

国際

- 優秀な外国人材を含む国際化・多様性の促進
- 若手人材の海外経験、国際交流

- 外国人材の定着化に向けた環境整備
- 若手人材の海外挑戦機会の拡充